



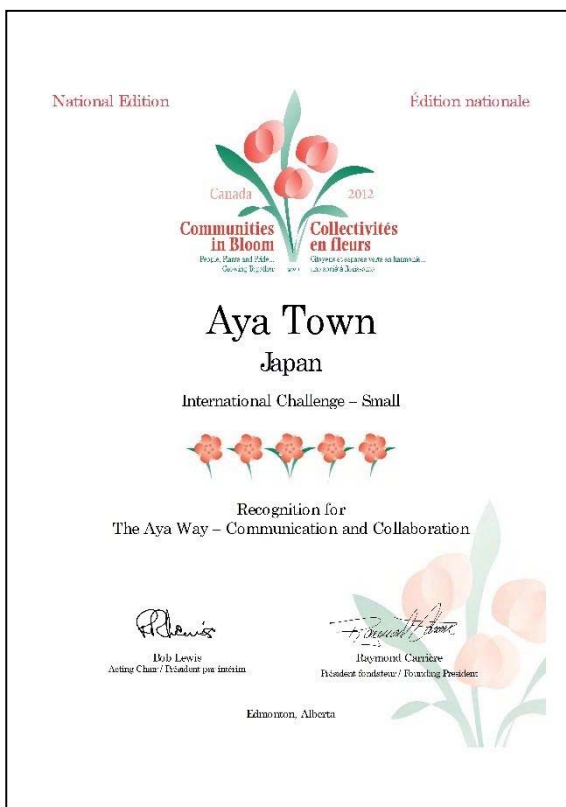
1. 都市計画マスタープラン策定の意義と目的

1) 策定の意義と目的

本町はこれまで、「照葉樹林都市 綾」を基調とし、安全安心な有機農産物などを生産する自然生態系農業の町づくり、手作り工芸の里づくり、豊かで活力に満ちた教育文化都市づくり等の取り組みを進めてきました。特に照葉樹林を地域資源とした取り組みは本町独自のものであり、平成 24 年(2012 年)7 月に「ユネスコ エコパーク」に登録され照葉樹林と共生した地域として評価されるだけでなく、CIB 国際美しいまちづくりコンクールで国内初の 5 つ星（最高ランク）を受賞する等、豊かな自然だけではなく人が生活し生産活動を行う地域でも評価されたことで、本町の自然と共存した持続可能な地域づくりの機運が高まっている状況にあります。

都市計画に関しては、市街地部の適切な土地利用や機能的な都市活動を推進するために、用途地域の指定（昭和 48 年(1973 年)に指定、平成 7 年(1995 年)に変更）や都市計画道路の整備を進めていくとともに、平成 12 年(2000 年)3 月に綾町都市計画マスタープランを策定しています。その当時の計画では、「人と自然が調和した照葉樹林都市・綾」を町の将来都市像にして、都市計画区域およびその周辺の土地利用の基本方針や都市施設・市街地整備の基本方針を設定しています。

しかしながら近年では、「ユネスコ エコパーク」の認定や CIB 国際美しいまちづくりコンクールでの 5 つ星受賞などによる今まで以上のまちづくり機運の高まりや、全国的な少子高齢化の進行、地方創生・他市町との広域連携の必要性が高まっている等、本町を取り巻く環境が変化してきています。





今回、綾町都市計画マスタープランを改訂する目的は、このような状況を踏まえた、本町の新しい都市計画の基本的な方針を定めるものです。本計画の構成と策定体制を下記に示します。

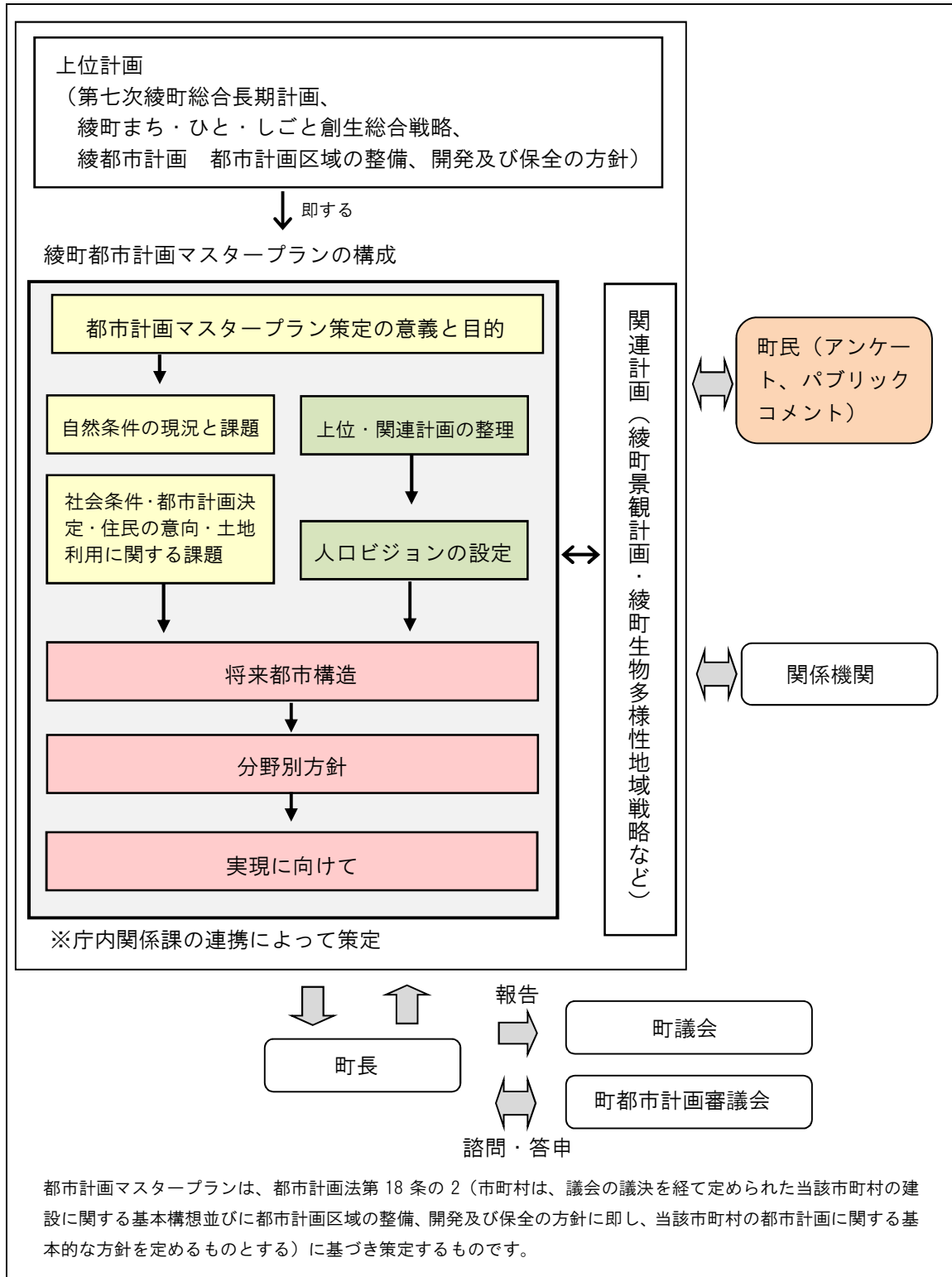


図 綾町都市計画マスタープランの構成と策定体制



2) 都市計画マスタープランの目標年次と役割

本都市計画マスタープランは綾町内の都市計画区域内を対象とし、長期的な視点に立った綾町のまちづくりの指針の中において、都市計画区域内を中心とした取り組みを整理します。また、目標年次を20年後の平成49年(2037年)とし、計画の内容について10年後に見直します。但し、社会経済情勢の変化等によって計画内容に大幅な変更が生じる可能性がある場合は、適宜、見直しをする方針とします。

一方、本町には「人と自然をいのちの輪でつなぐ」を目標とする姿に設定し、ユネスコエコパーク登録後50年後(平成27年(2015年)4月～平成73年(2061年)3月)までを実施期間としている綾町生物多様性地域戦略があります(下表参照)。この地域戦略では、本町を8つの地域に分類し、既に行われている地域活動等に自然再生や生物多様性保全の視点を加える内容の行動計画等を示しています(次頁参照)。

本都市計画マスタープランで掲げる「土地利用の基本方針」や「都市施設整備の基本方針」等は、綾町生物多様性地域戦略やその他の各種計画も踏まえた上で、この地域戦略との整合を図ります。

表 綾町生物多様性地域戦略の実施期間

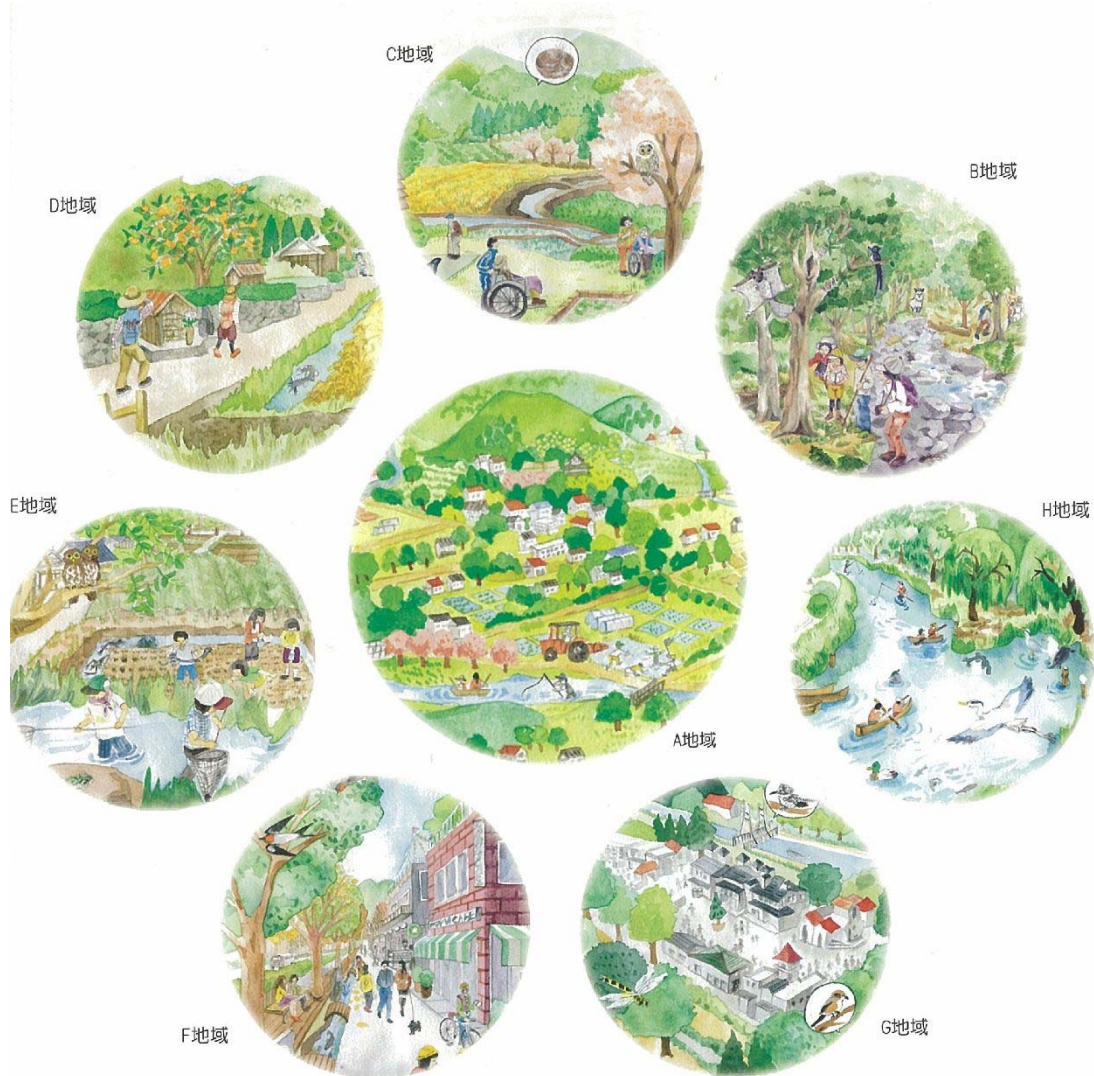
和暦(平成)	西暦	綾町生物多様性地域戦略	綾町の取り組み	連携した取り組み
24年7月	2012年		綾ユネスコ エコパーク第1期	
25年4月	2013年			綾プロ協定第2次 推進計画(10年ごと)
27年4月	2015年	第1期行動計画 開始		
28年4月	2016年		第七次綾町総合長期計画	
32年	2020年			愛知目標 短期目標
33年3月	2021年	短期目標		
33年4月	2021年	第2期行動計画 開始	第八次綾町総合長期計画(5年毎)	
34年7月	2022年		綾ユネスコ エコパーク第2期(10年毎)	
43年4月	2031年	第3期行動計画 開始	第十次綾町総合長期計画	
47年4月	2035年			綾プロ中期目標
53年3月	2041年	中期目標		
53年4月	2041年	第4期行動計画 開始	第十二次綾町総合長期計画	
62年	2050年			愛知目標 中長期目標
63年4月	2051年	第5期行動計画 開始	第十四次綾町総合長期計画	
73年3月	2061年	長期目標		
73年4月	2061年	新たなステージへ!	第十六次綾町総合長期計画	
	平成74年7月 2062年		綾ユネスコ エコパーク登録50年	

本都市計画マスタープランの
目標年次時期

(出典：綾町生物多様性地域戦略)



参考：綾町生物多様性地域戦略で掲げている 50 年後の未来



- A 地域：綾町全域 「人と自然のネットワークが構築されている」
B 地域：野生が息づく地域 「綾の照葉樹林プロジェクトと連携した森林の保全と利用がおこなわれている」
C 地域：多様な自然と共生する地域 「多様な自然を体感する癒しの里になっている」
D 地域：里山と共生する地域 「いのち豊かな里山管理のモデル地域になっている」
E 地域：有機農業の耕作地域 「生きものがにぎわう有機農業の里になっている」
F 地域：豊かな住環境地域 「水・緑・くつろぎの空間がある快適で美しい町並みになっている」
G 地域：自然と共生した工業地域 「環境経営に取り組む企業が増加している」
H 地域：豊かな河川環境地域 「いこい・やすらぎ・体験の水辺空間になっている」

(出典：綾町生物多様性地域戦略)